

平成 30 年度 第 1 回 学校運営協議会記録

	学校名	男鹿市立美里小学校
開催日時	平成 30 年 5 月 9 日 (水) 9 時 30 分～11 時 20 分	
協議内容 委員発言内容 等	<p><任命状交付> 市教委：任命状交付 市教委：「コミュニティ・スクールの推進に係るアンケート（平成 29 年度）」の結果についての説明。 男鹿市全体としては、昨年度より評価が高くなっている。ただコミュニティ・スクールの周知に関することの評価はまだまだ低いので、取組を理解してもらえらるようしていく。周知のために市のHPに各校の取組をアップしていくことも考えている。ただ、HPを見ない方もいるので、委員の皆様からもコミュニティ・スクールのよさについてお知らせしていただければありがたい。 コミュニティ・スクールの情報交換会を9月と1月に予定している。各校の代表の方のグループ協議を予定している。 生涯学習室では、地域コーディネーターを男鹿市内各校に1名ずつ配置した。地域と家庭をつなぐ窓口として連絡調整を図り活用していきたい。</p> <p><校長あいさつ> 校 長：統合前の各地域から3名ずつ委員になっていただいている。委員の皆様から意見をいただきながら、地域の学校として、地域の人材等を生かした教育活動を進めて行きたい。 学校職員は、昨年度より2名増えた。児童数は、昨年度より少ししか減っていないが、今後は急速に減る見通しである。 (出席者自己紹介)</p> <p><コミュニティ・スクール事業について> 校 長：(資料をもとに確認)</p> <p><校内一巡(授業参観)> 1年生～6年生、あすなる学級の授業参観</p> <p><学校経営説明> 校 長：学校では、知・徳・体のバランスのとれた教育を行っていききたい。 学力については、新学習指導要領の趣旨に沿った授業を展開していく。学級内での話し合いをしながらお互いの考えを聞くことで深い学びができるようになっていきたい。外国語活動については、3年生以上の授業時数が15時間増えたが、毎週木曜日に来校するALTを活用し、発音等を正しく学べるようになっていく。また、地域を学習の場とする体験活動は継続していく。今週は、3年生が五里合地区の梨園で受粉体験</p>	

協議内容
委員発言内容
等

をしている。また、徳育として、今年度は「いのちの教育あったかエリア事業」を美里小学校と潟西中学校で取り組むことになった。もともといじめの自殺防止のための事業であるが、予算もついているので小中合同の事業や美里小単独の事業で、子どもたちの心に残るように、体験活動を中心にすすめていきたいと考えている。男鹿水族館G A Oとの連携をしながら、美里農園で育てたサツマイモをシロクマに食べてもらえるような、楽しい活動も予定している。

道徳の授業では、ゲストティーチャーを活用した授業を各学年1回は行う予定しているので、委員の皆様から地域で生命尊重や思いやりの授業に参加いただける方がいたら紹介してほしい。

体力づくりのために、業間運動を毎週2回行っている。スクールバスの利用で、歩く機会も少なくなっているため、少しでも体力が付くようにグラウンドを走ったり、天気の良い日は、なわとびを行ったりしている。防災教育については、地域でも被害にあった日本海中部地震や男鹿地震についてもふれていきたい。

<意見交換>

A委員：道徳の授業のゲストティーチャーに、命の教育ということで、学校向かいの永源寺の住職がいいのではないかな。

D委員：ケアマネージャーは知っている。小学生よりも中学生に向いているかもしれない。

校長：委員の皆様からご紹介いただいたゲストティーチャーは、中学校にも紹介したいと思っているので、地域や男鹿市内で知っている方がいれば、是非紹介してほしい。

A委員：今、新潟の小学2年生の事件が報道されている。命の大切さを育む教育も大切だが、命を守ることも大切である。帰りに一人にならないような工夫はできないものか。

例えば、地域の方に頼んで下校時に見てもらえるなどの協力はできないものか。

市教委：スクールガードの養成を行っているが、地域の方からの参加は少ない状況である。その会には、警察の方からも入っていただいて見守りのポイントを伝えているが、メンバーがほぼ固定化してしまっている。多くの方々に参加していただいて見守り体制を広げていきたいと考えている。

A委員：研修会への参加等だとハードルが高い。あまり堅苦しくならないような見守りでもいい。難しいかも知れないが、スクールバスで帰ってきた子どもを、バス停から自宅まで下校時に誰かが見届けてくれるだけでもいい。校報で地域に呼びかけることでもいいかもしれない。

D委員：かつて鶴木地区は集団で登下校していたが今はどうなのかな。

H委員：朝は集団で登校しているが、帰りは終わる時間や学童・スポーツとばらばらで、集団では帰っていない。

C委員：鶴木地区は、以前は下校指導で見守り活動をしていたが、時間になっても歩いて帰る子どもが少なくなり、ほとんどいなくなった頃に、自然消滅するような形で見守り活動も終わってしまった。

F委員：スクールバスのバス停から家までの間は、少人数の場合が多

協議内容
委員発言内容
等

い。近くの人が見てくれればいいが。

A 委員：見慣れない人と会ったときが問題である。知らない人から声をかけられたらどうするかを考えておく必要がある。

校 長：次回の校報で登下校の安全の見守りを地域に呼びかけたい。また、PTA校外生活部で、こども110番のシールを貼らせていただいている家もある。いざというときに子どもたちが逃げ込める場所ではあるが、そのお宅にいる方から窓越しに子どもの下校姿を見てもらうだけでも違うと思うので、見守りのお願いしていきたい。

C 委員：地震については、日本海中部地震の時には、保育園に勤めていた。避難訓練は月1回義務づけられていた。当時は泣く子どももなく無事対応出来た。訓練を行っていたためだと思った。

A 委員：男鹿地震については、旧五里合小で男鹿地震の歌があった。男鹿地震は津波はなかったが、家屋の倒壊がひどかった。日本海中部地震では、五里合地区でも津波の犠牲者が出た。

C 委員：日本海中部地震は、野石の宮沢海岸にも大きな津波がきていた。松林には衣類が引っかかっていた。

校 長：避難訓練の時にでも、地域でも大きな被害があったことを風化させないように伝えていきたい。

F 委員：小中一貫校が報道されているが、小坂町や井川義務教育学校などの例もあるが、男鹿市はその構想などがあるものか。

市教委：具体的なものは今のところないが、メリット・ディメリットは何なのかについて勉強しているところである。

A 委員：美里小もそうだが、男鹿市全体で子どもが減って行って、将来のことを考えるとぞっとしてくる。

F 委員：地域の施設の管理も町内でできなくなってきた。町内ごとにまとまった活動もしているが、この後、大変になっていく。

教 頭：この後もいろいろご意見をいただきながら、この協議会を進めて行きたい。具体的に地域から気が付いたことがあれば教えていただきながら、よりよい学校運営をしていきたい。